菜式指月抄

五篇

下

ヲ9
津
422
10

津門
號 422
巻 10

明治二六年十二月十三日
坪内雄蔵氏寄贈

茶式湖月抄五編巻下

臺子飾五十箇條

此臺子飾ハ南坊宗啓へ利休より相傳圖ゟ

弓臺中根飾且臺子規矩の割方秘傳ゟ

すぐゟ四編おなじくゟ其臺子ゟ

ゟ出す處なり

此圖本紙ゟ一冨々右何々の飾如此相

違無之者也宗易と記シ又図の終リよ

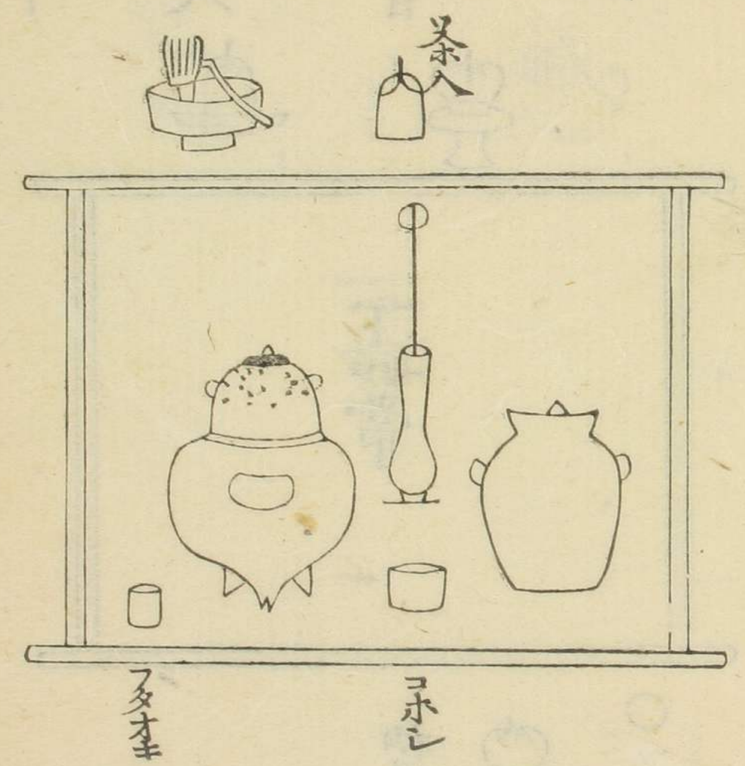
右臺子卸傳授之卸切紙五十枚余并
及臺中枚飾之外十六ケ条一巻取集置
右卸相傳之時朱書ホ仕ル巻物則巻物
ハ添削ハ仰ハ之ハ

十一月五日

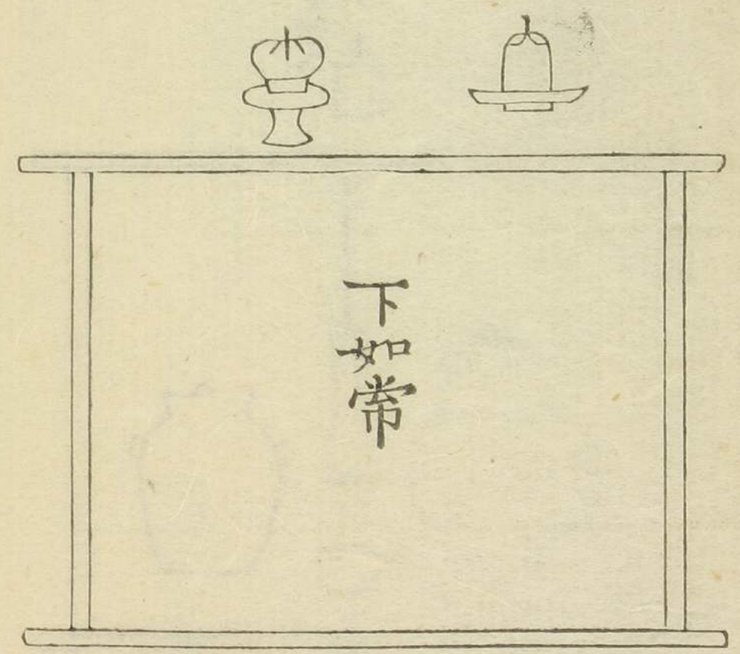
拙筌主公

南坊宗啓

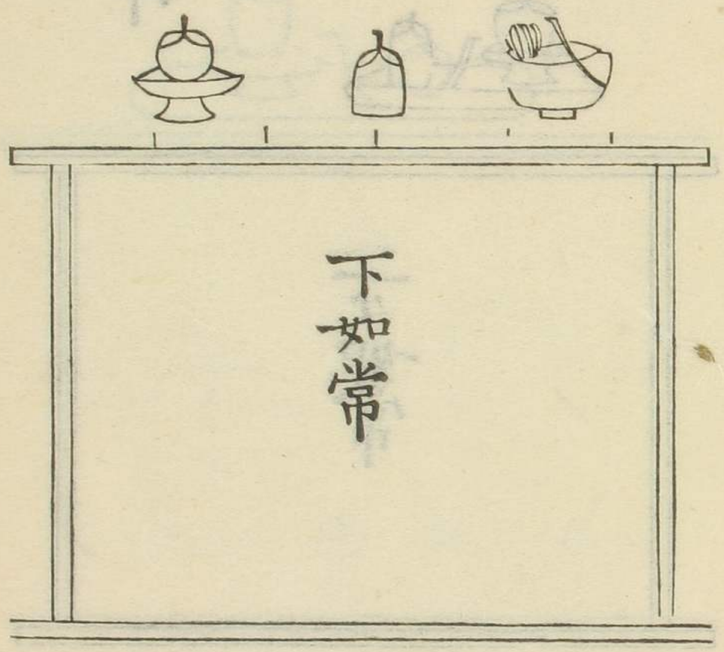
常侍
道具飾



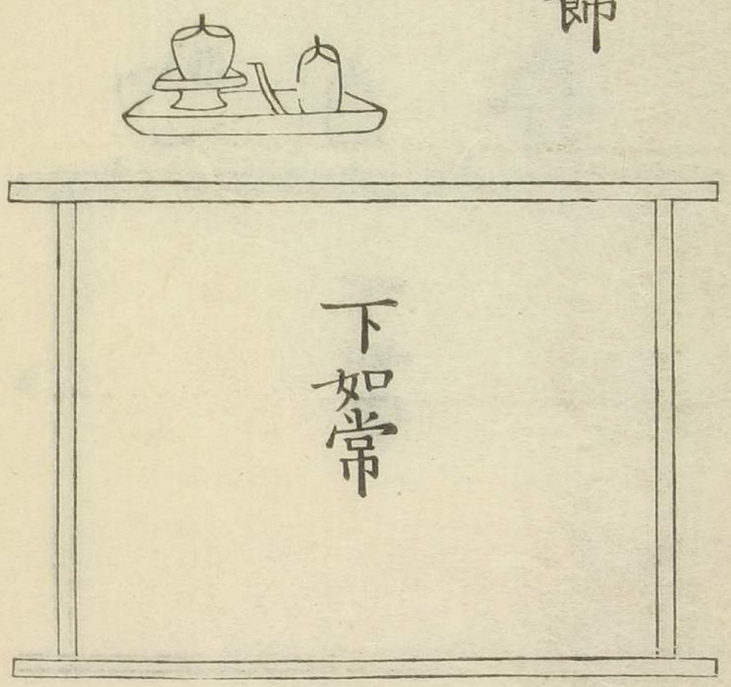
常盆飾



尊客
初座飾

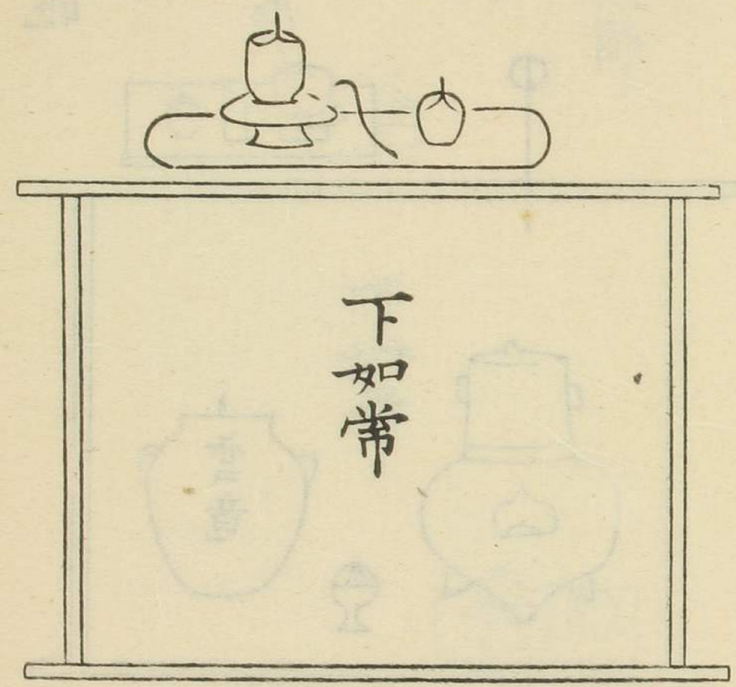


長盆
常の三ッ飾

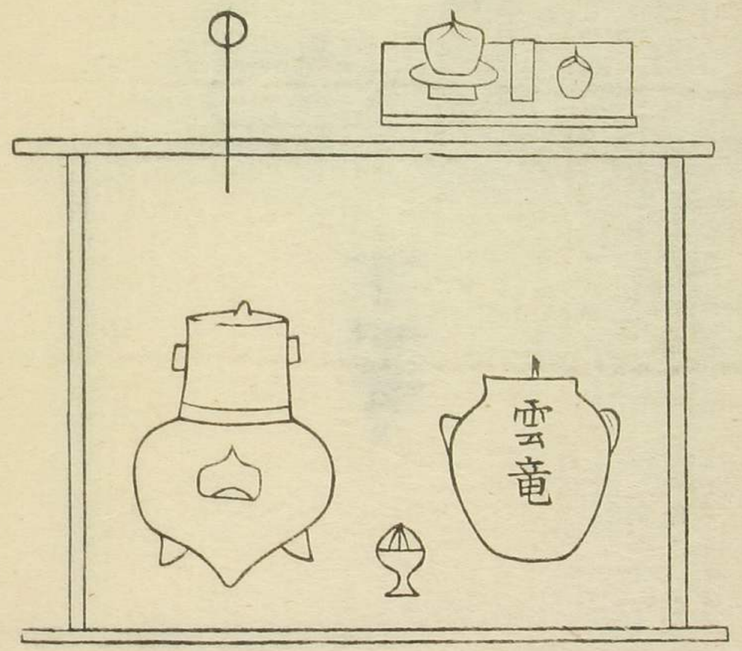


長盆

長盆
三ッ飾
他家と
飾の
違ふ品

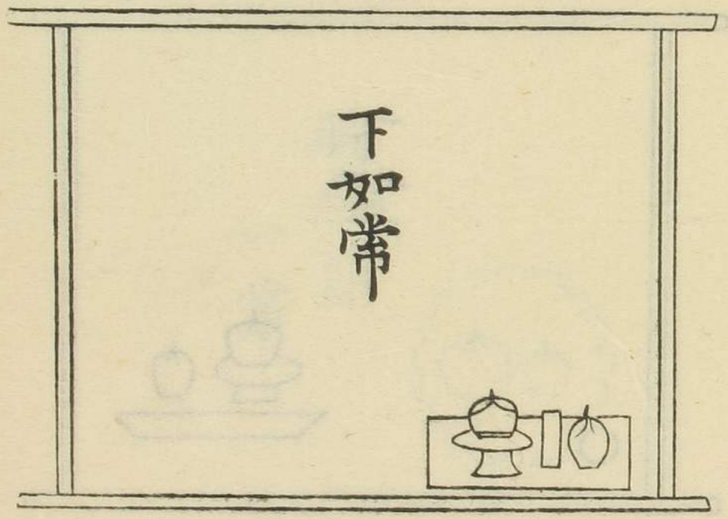


青磁雲龍
名物茄子
名物天目
飾

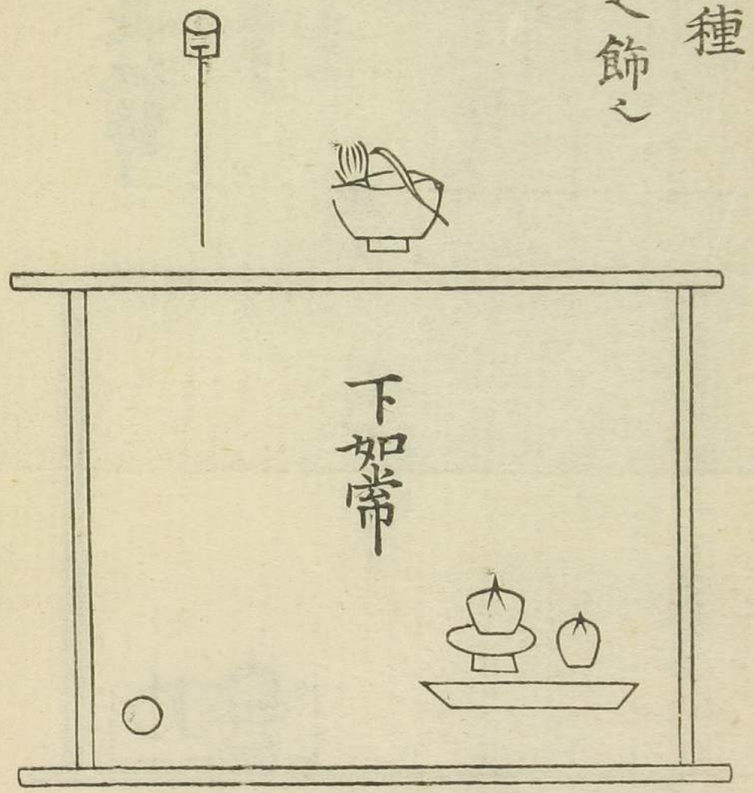


三種
極真長板飾

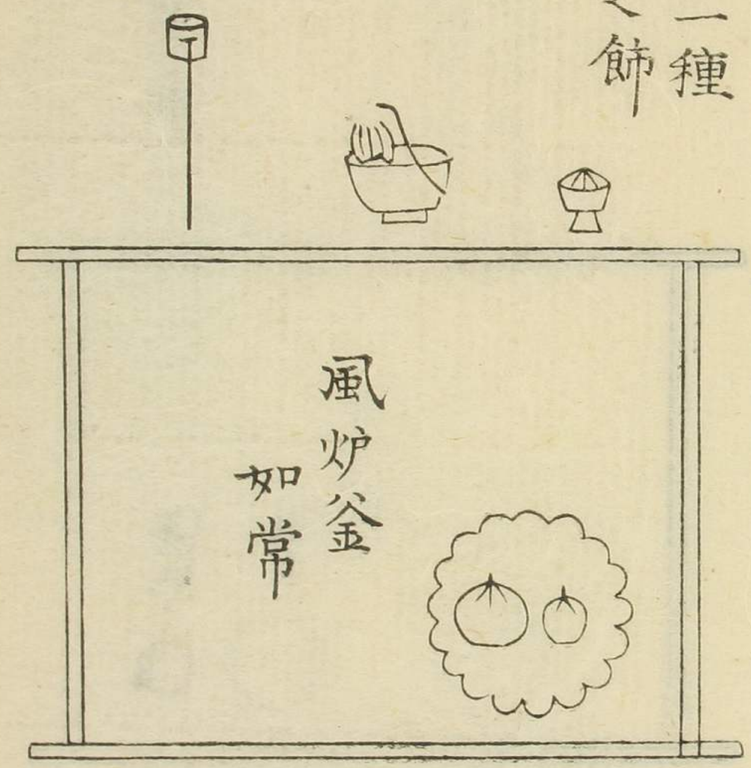
月山長盆ナリ
手前中第一
賞翫ナリ
手前サバキ
口傳



中盆二種
真之飾之

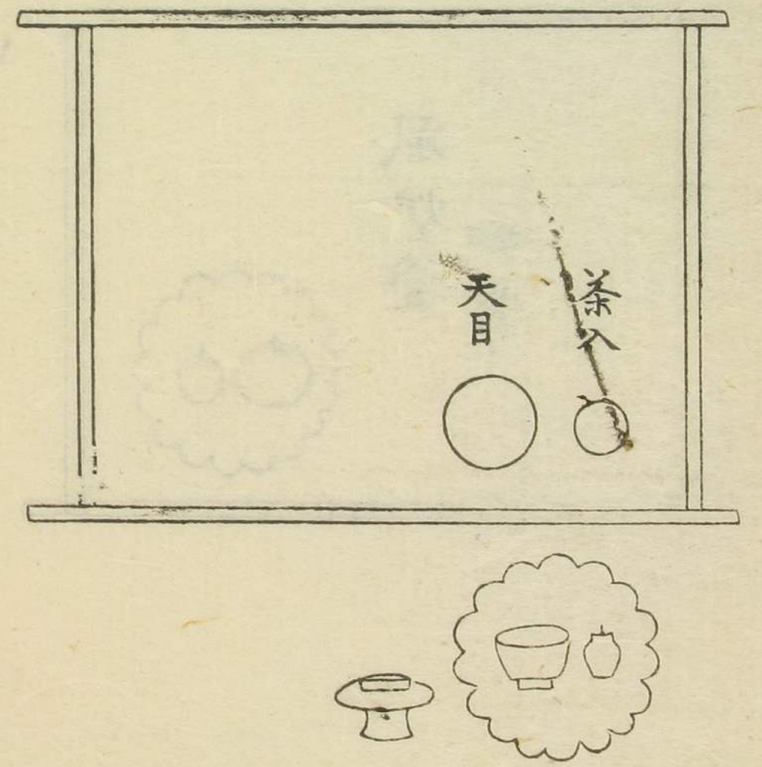


雷盆二種
真之飾



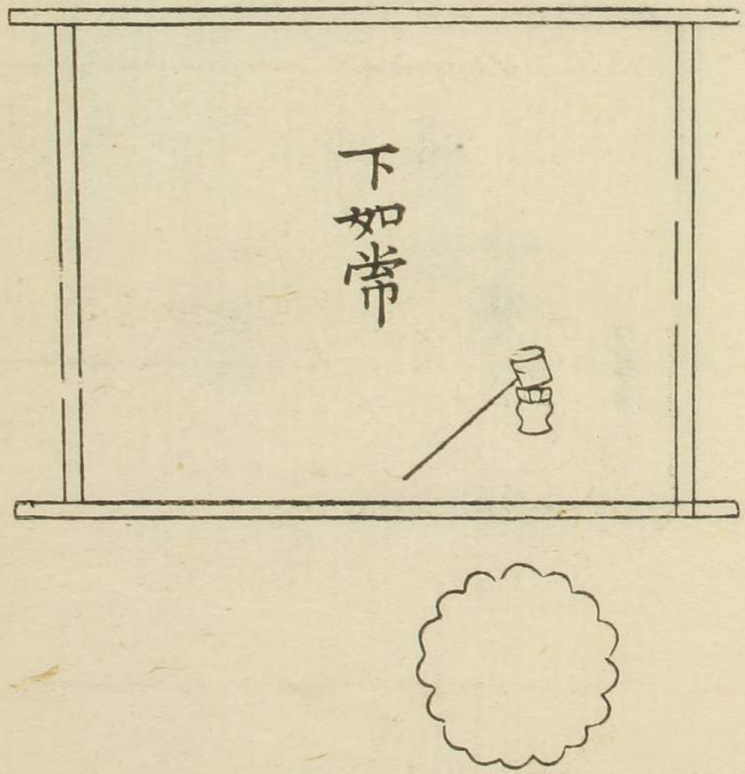
同

手前之圖

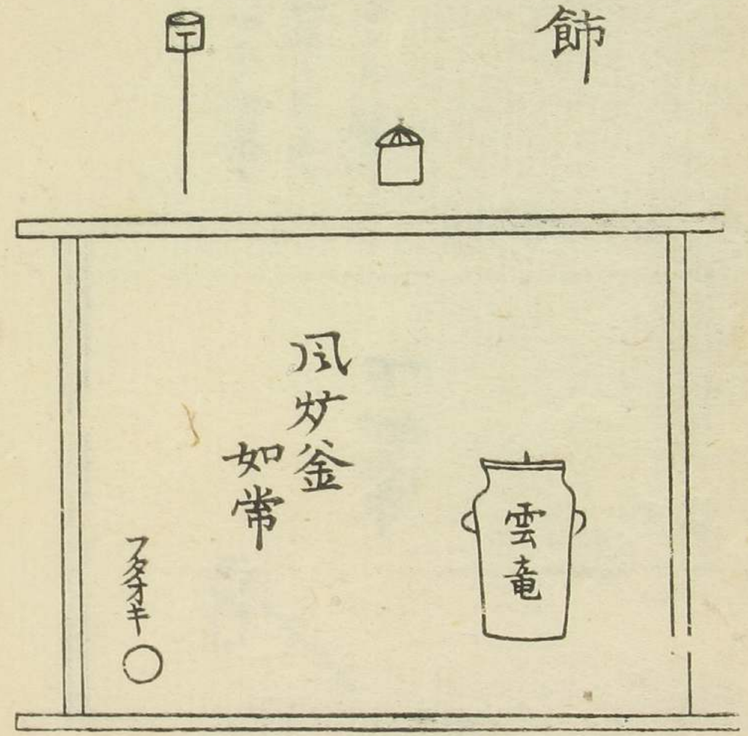


其二

柄杓ノ引ヤウ茶筌ノオキ所道具ニヨリテ高下ヨクくゝ勘スベシ

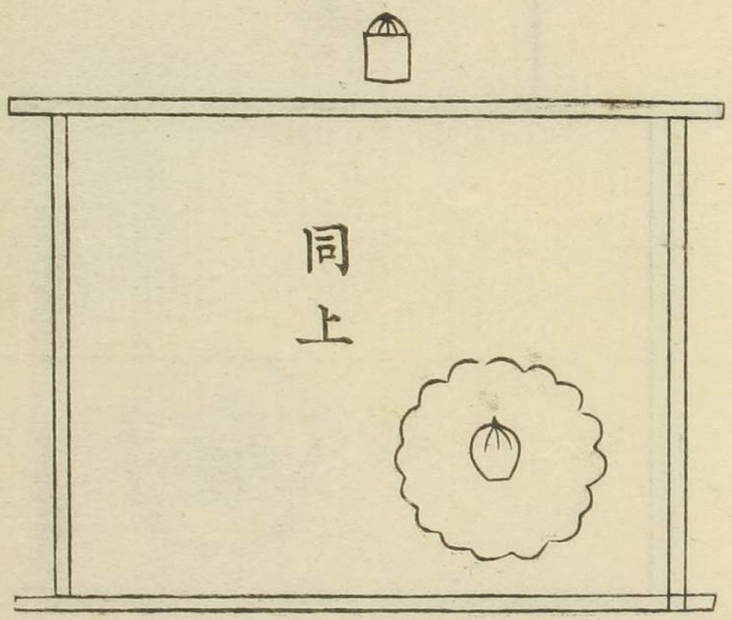


雲龍
一種飾



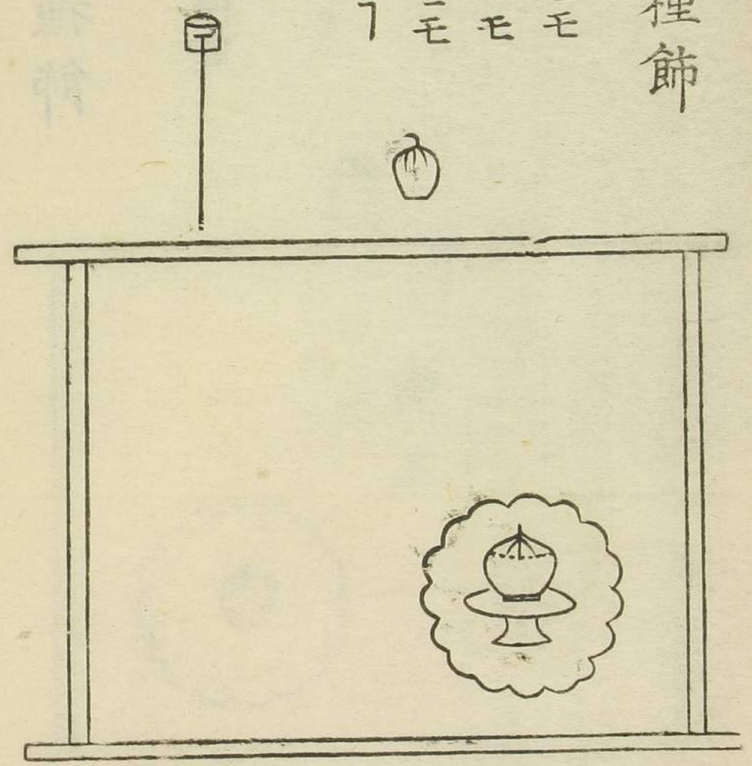
鎌倉一種飾

雷盆ニ鎌倉
ハカリナリ
手前別支
ナシ

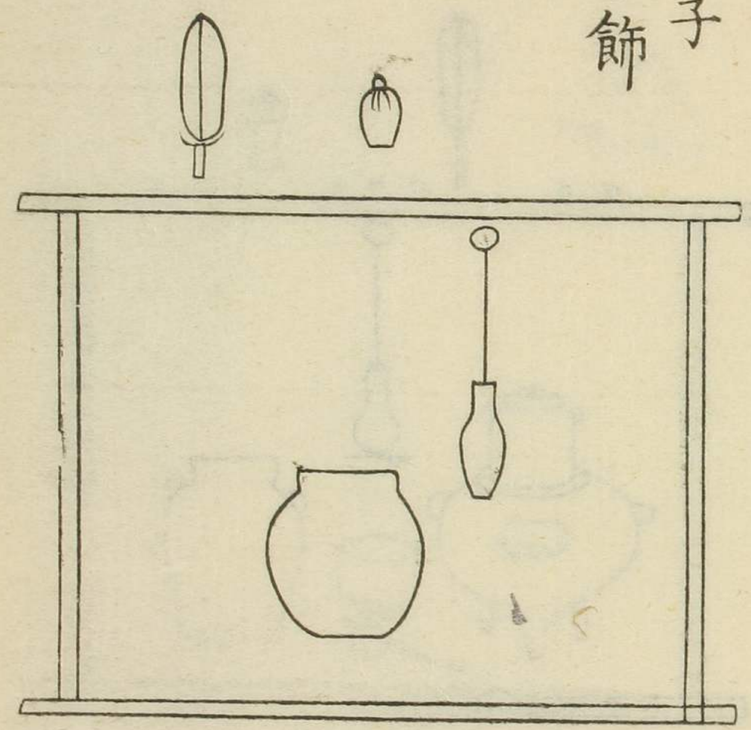


花山一種飾

雷盆ニモ
中盆ニモ
又月山ニモ
カサラルヽ
アリ

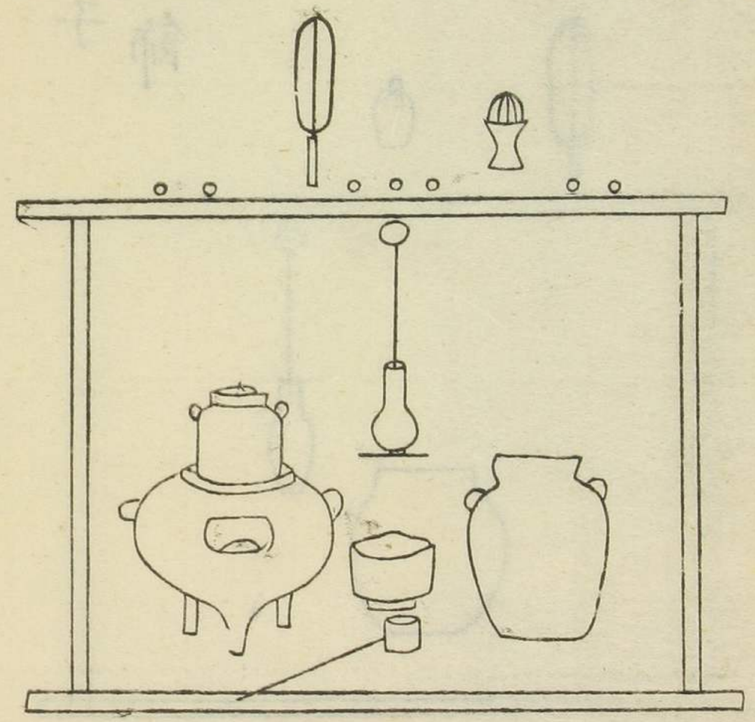


ソロリ合子
獅子飾



火屋（ホヤ）飾

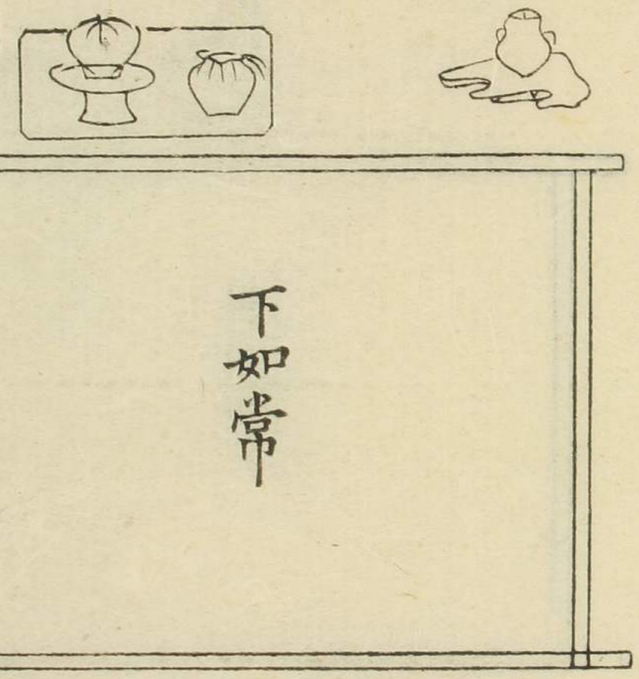
五ノ内



サヽ耳

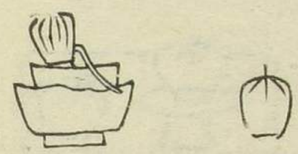
大海二種

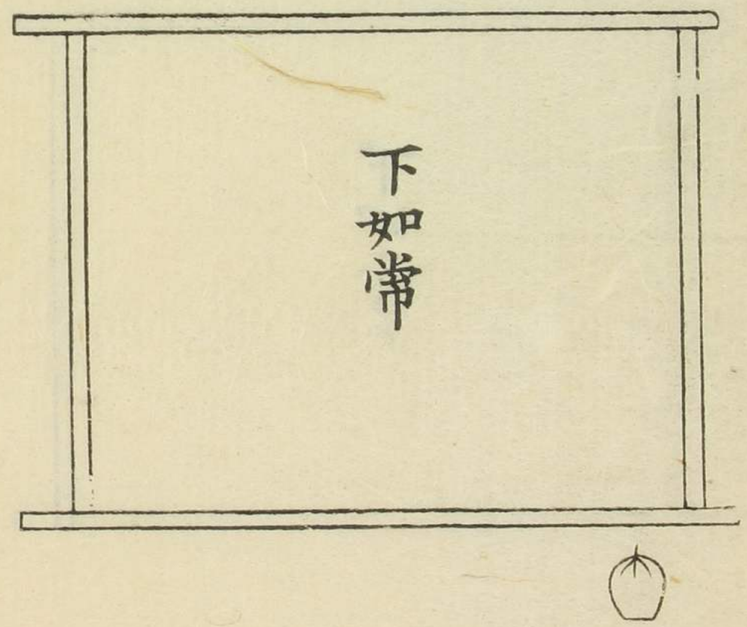
一碗飾



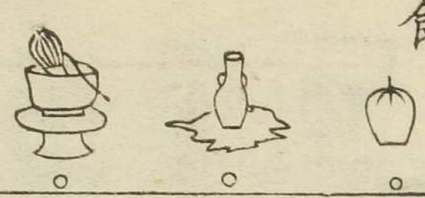
下如常

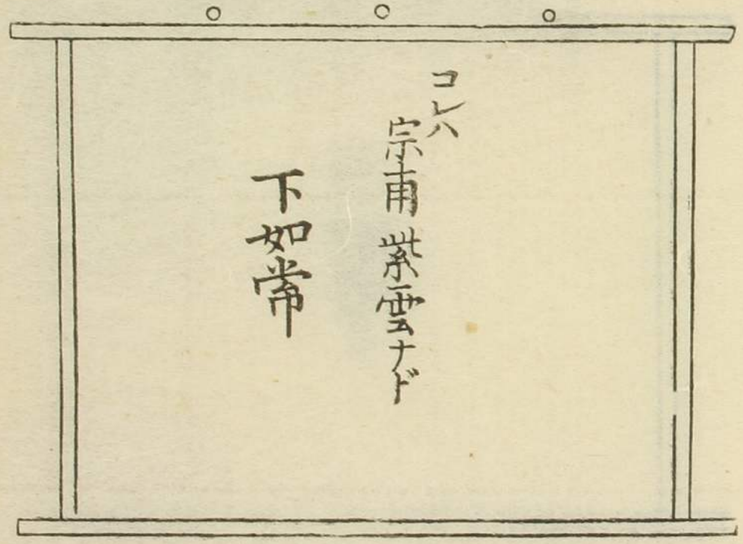
二種二碗
サヽ耳
盆飾



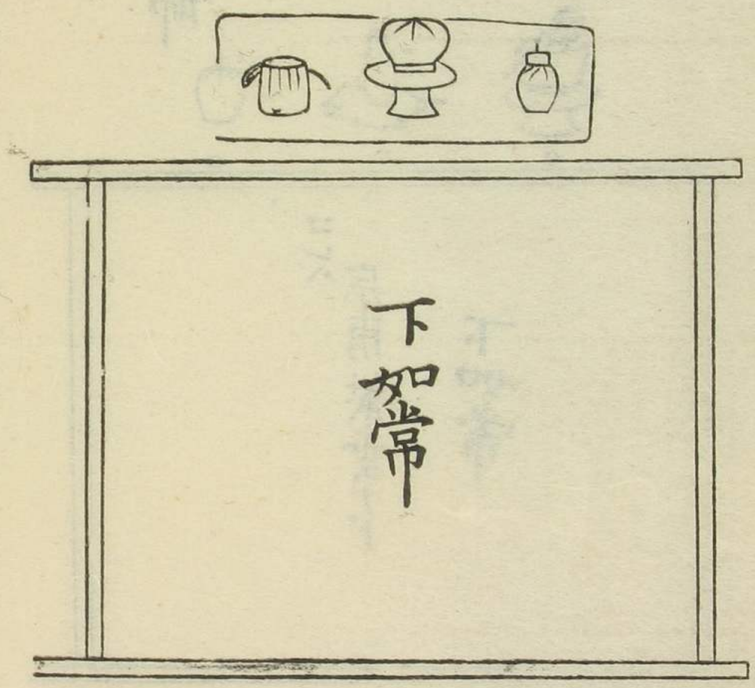


サヽ耳
二種一碗飾



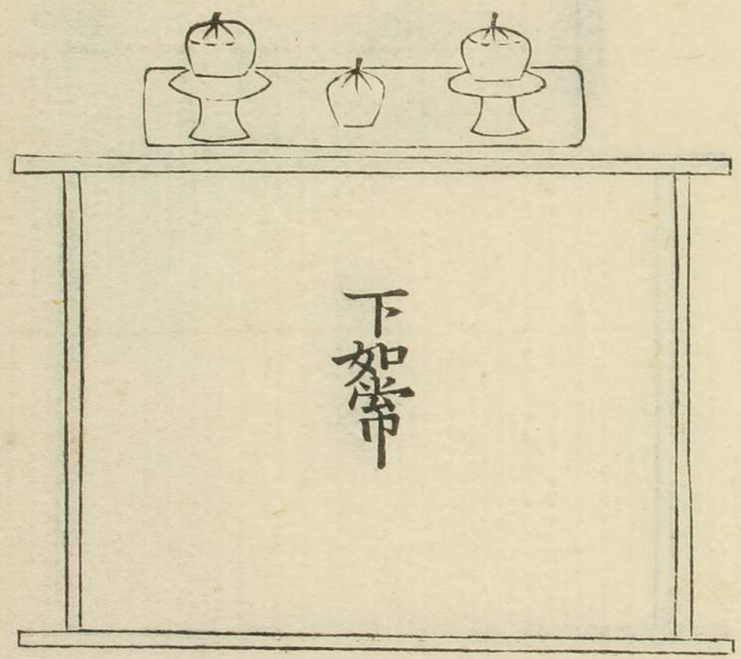


二種一碗
長盆飾



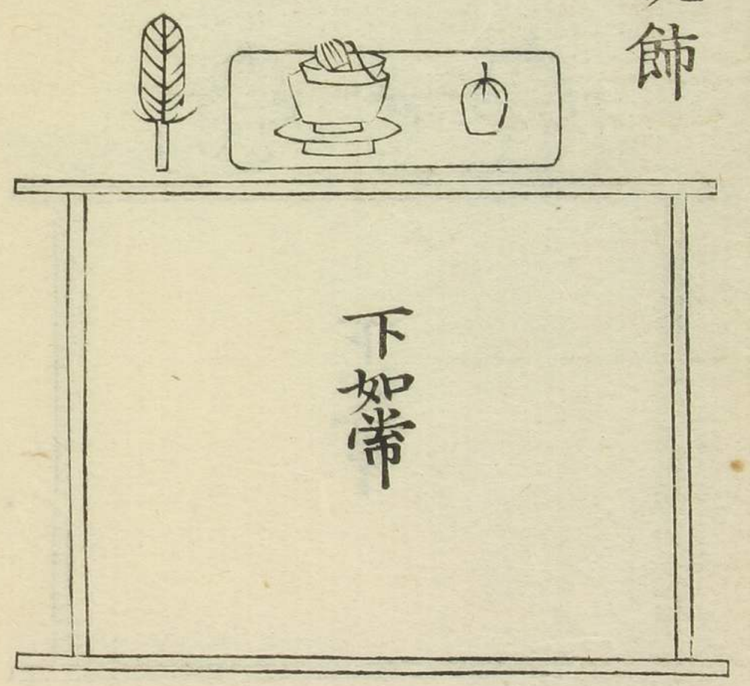
下如常

両尊
天目
尺長飾



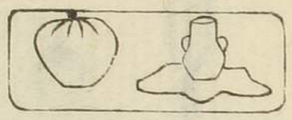
下如常

二服二碗飾



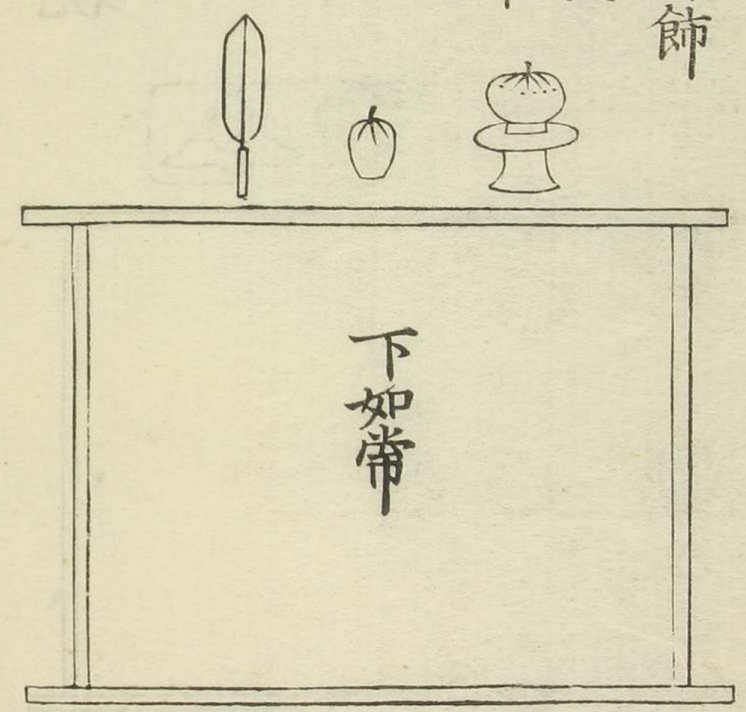
下如常

珠光茶碗
長盆
如此組合
之飾

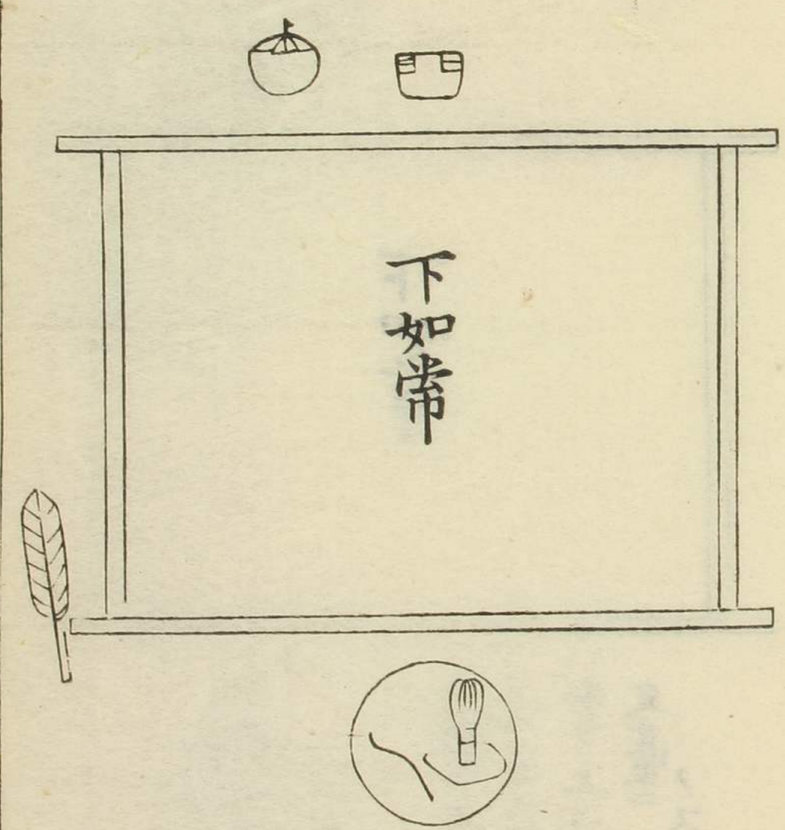


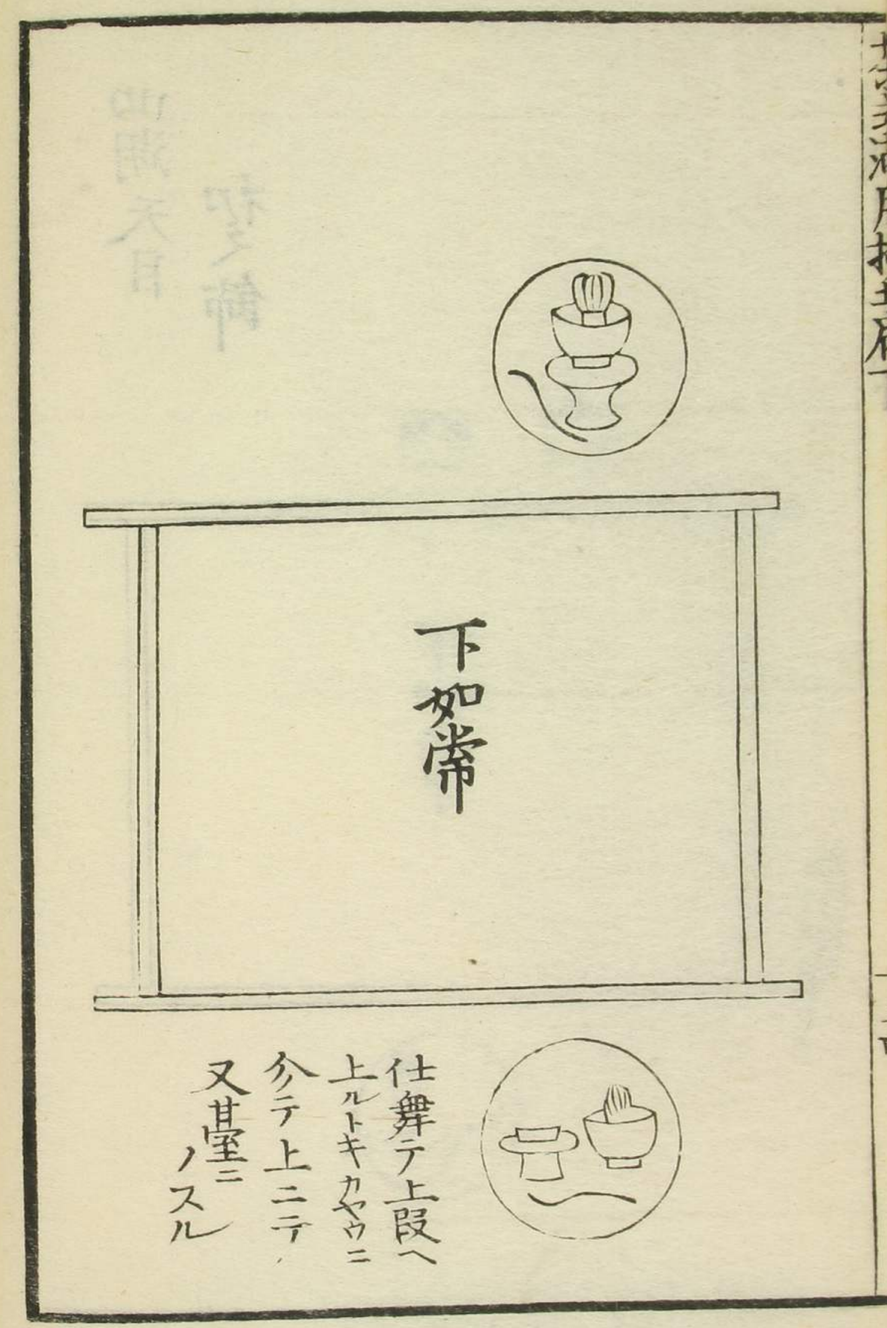
下如常

名物天目飾
藥師堂
如世之飾
ナリ

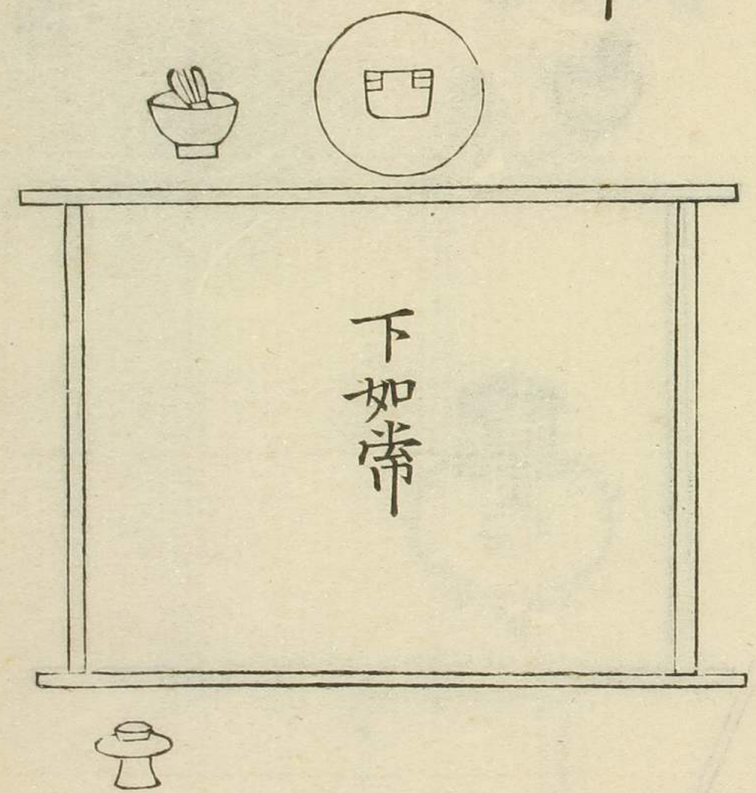


曲湖天目
初之飾

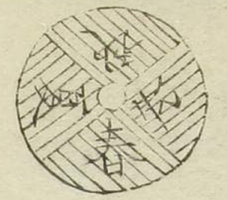


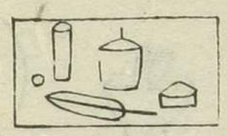


名物天目
西湖飾

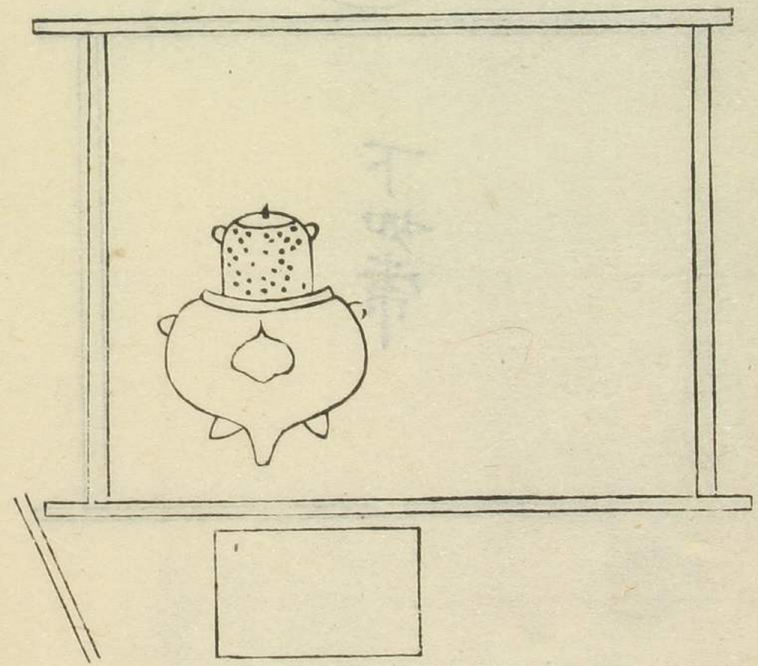


草の香炉飾

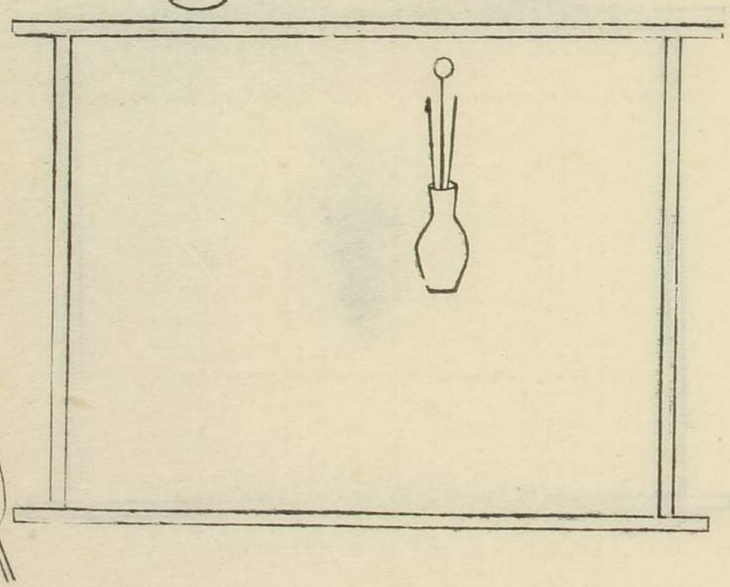


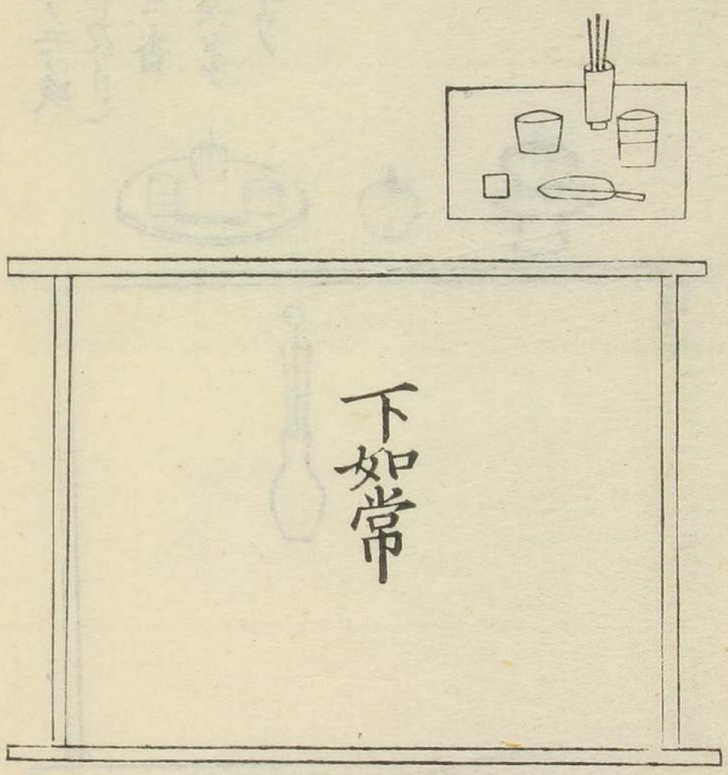


前後
三ツ之内



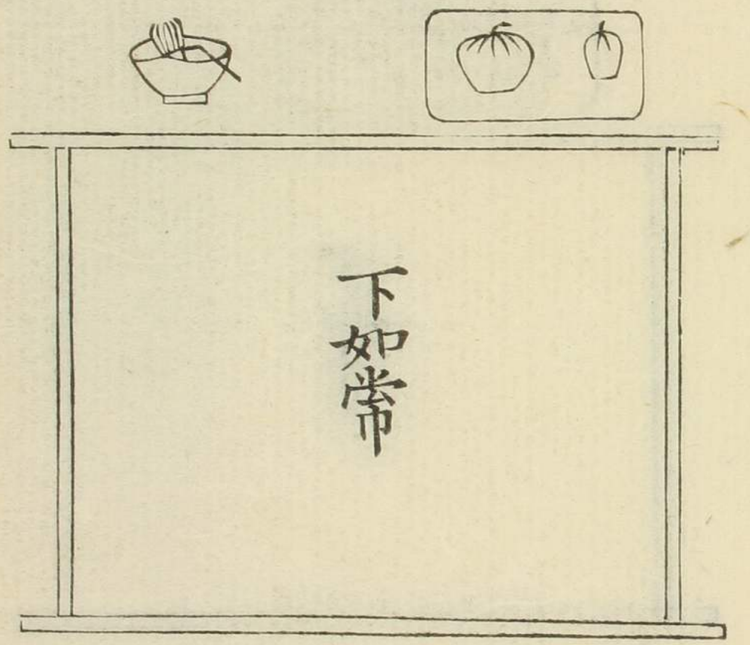
ユレハ始ニテモ後
ニテモ不苦カサリ
同レクハ初ニ香
スミテ茶具タケ
上ルカヨキナリ





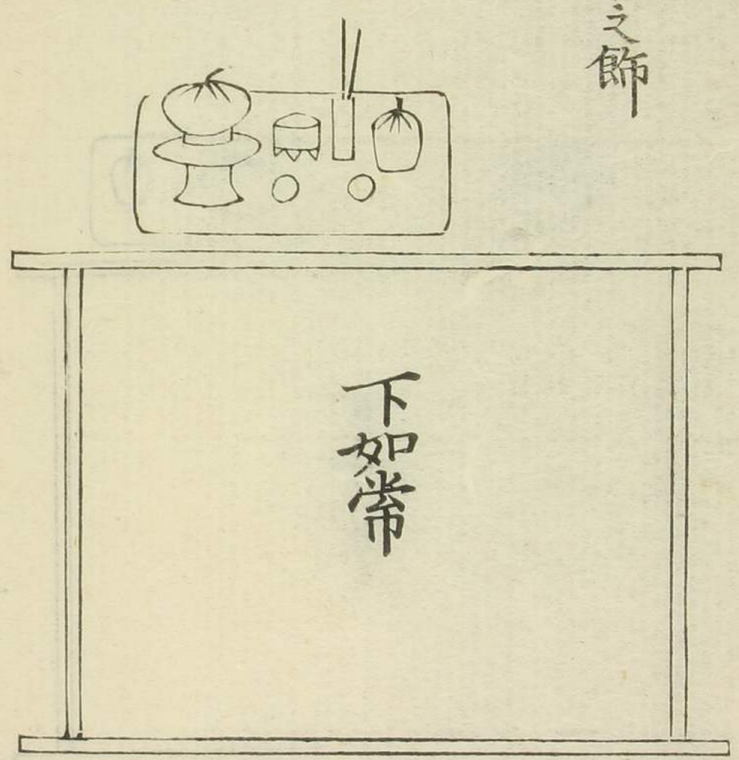
下如常

中盆
天目
茶入
飾



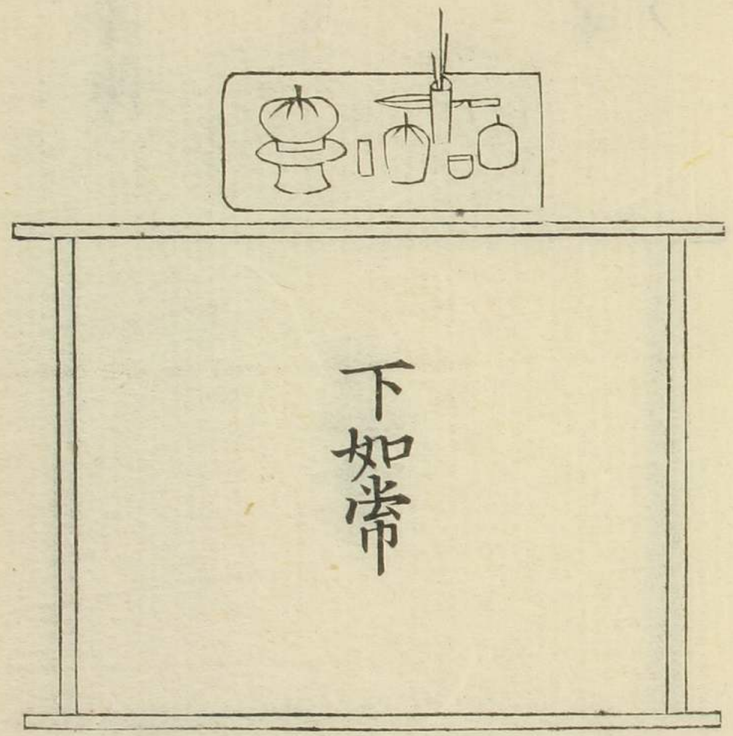
下如常

尺長盆
乱茶香之飾



下如常

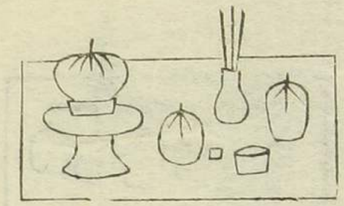
尺長盆
乱茶香
之飾

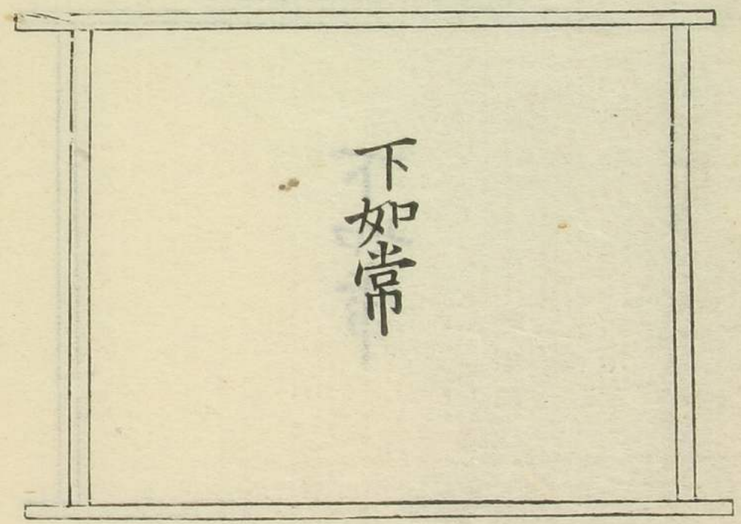


下如常

尺長盆
乱茶香飾

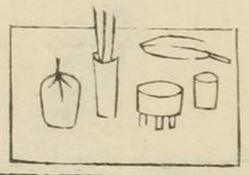
フレハ一入茶ヨリモ
香炉賞翫ノ
カサリナリ

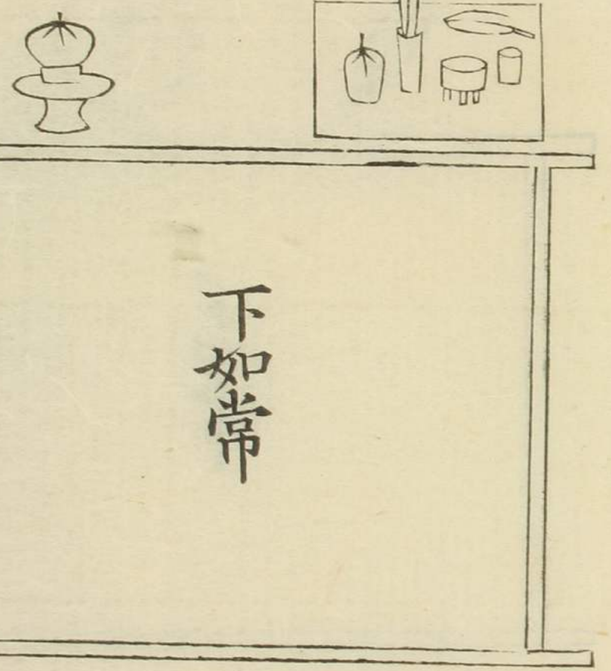




下如常

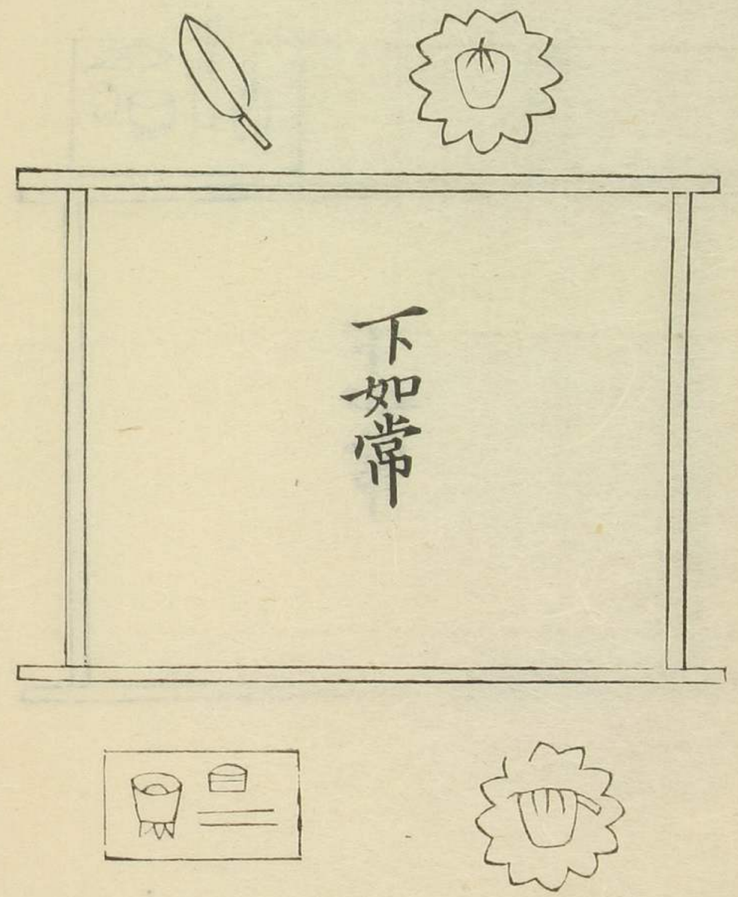
常長盆
茶香飾
但
天目
別臺ナリ



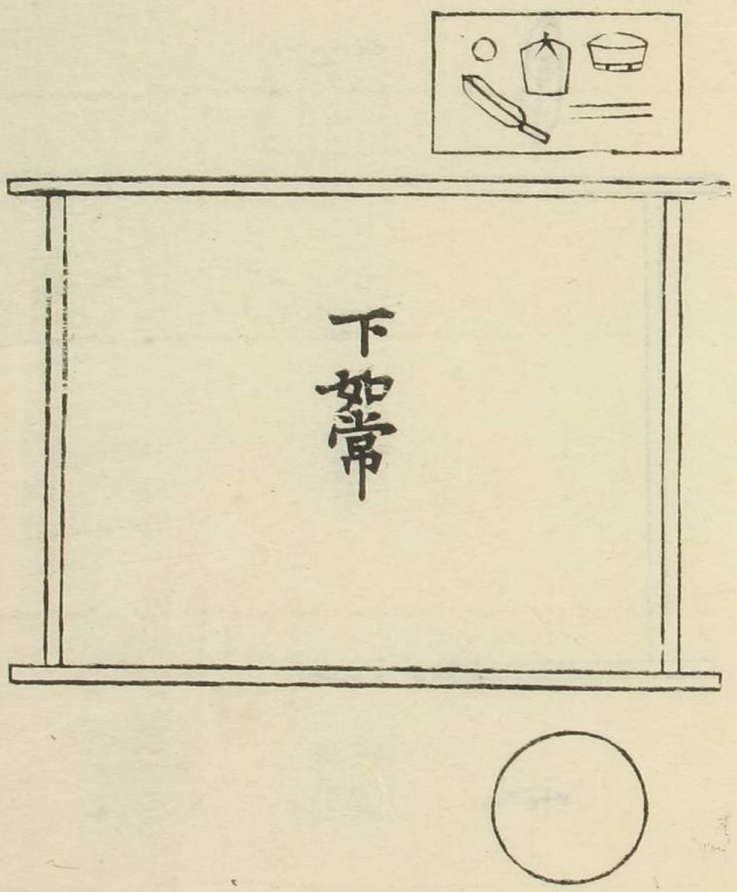


下如常

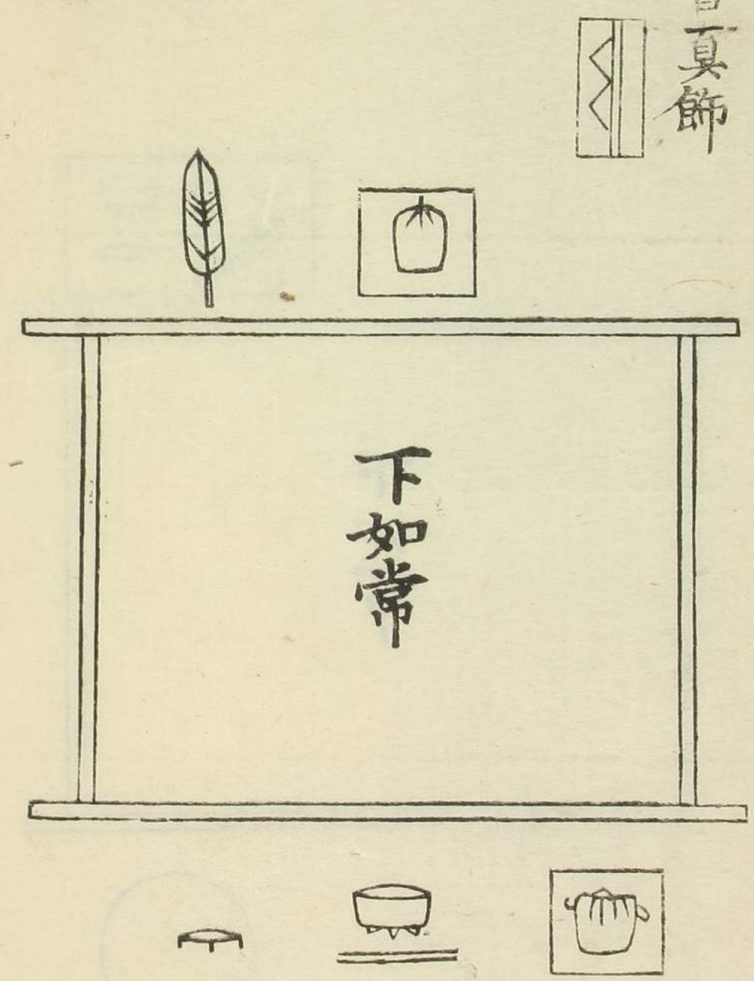
名物香炉
真飾



名物
香炉
飾



名香一具飾



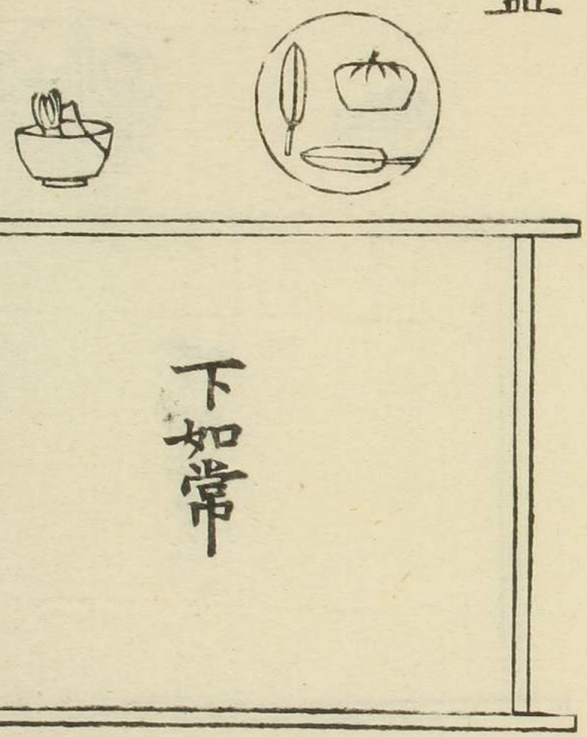
下如常

大海九盆

但

昼夜

別アリ

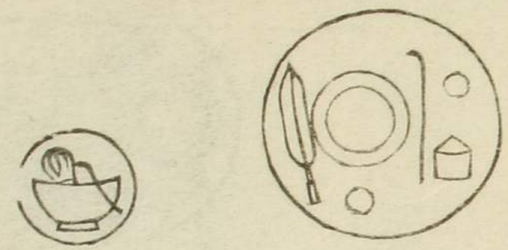


下如常

九盆大海
天目飾
五之内

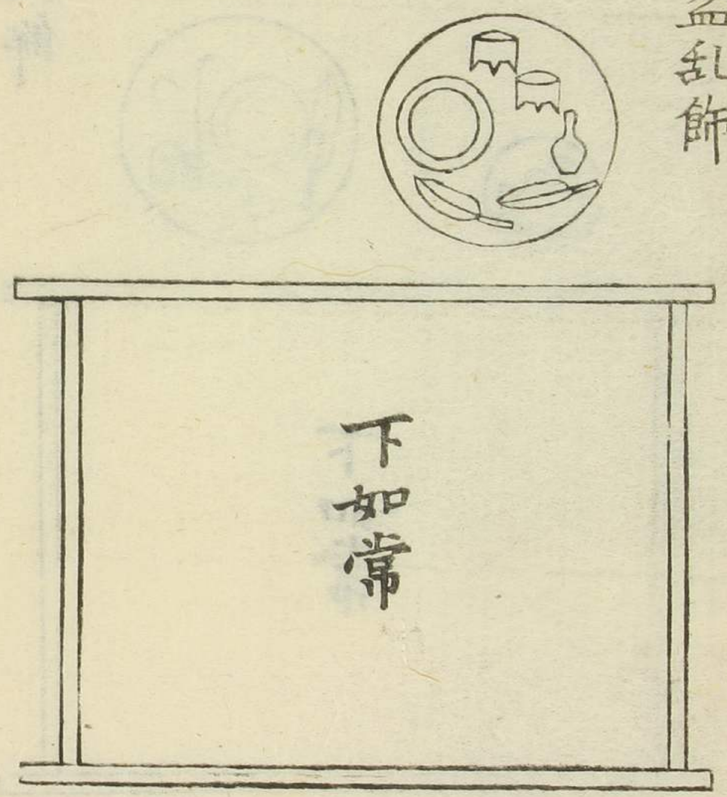
下如常

大盆乱飾



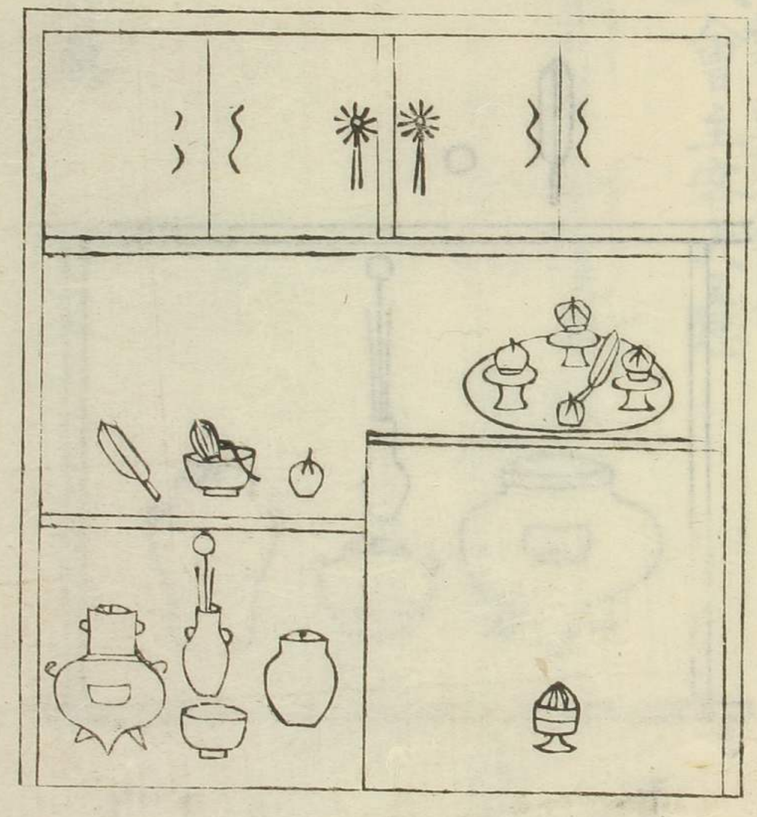
下如常

大丸盆乱飾

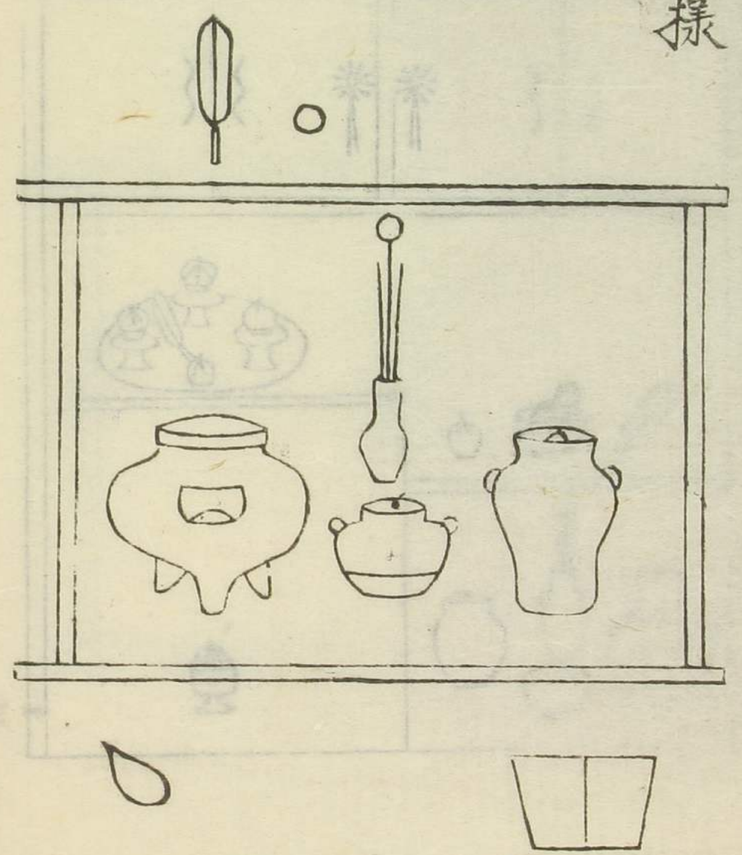


下如常

棚構
御臺子
前図



臺子炭次様



○交會主客大意

○茶會案内并會後謝礼

客主とも自身行き時刻を約し又主客のつもりあるとなさるべき二三日まで五七日もと前より約束ばし根親疎よりて度いつも及ばず但約定あるあるは外より懇なりと思ひ此道理を得あらぜず客かのくその聘をなさんとのゆゑあるまでなり又日ゆゑ日ゆ

[illegible]

[illegible]

○元亀の世臣の中に紙屋[illegible]

[illegible]

利休の[illegible]浅屋宗納[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○寄地草菴掃除の[illegible]

口切[illegible]の連枝竹[illegible]の引あけて紙[illegible]

つ[illegible]ふ[illegible]竹[illegible]ふ[illegible]

壁ハ古[illegible]

文[illegible]改[illegible]竹の連子竹の内二[illegible]

[illegible]と茗目[illegible]

和仏なり物つくるもの沙汰のごとく雪花いろ水仙
のうさ 挿牧とあるうめ 挿牧アうゑ戸あハ改うえ
乃ちず まうまえよくしを用うるの如給なく平
生のうえとそも雪花の掃除いつくすべく掃ちど
あるのうく入るうときまあうあるうえ
○ 雪花 大戸の心得
手の入れど 弱 雪へ大戸のかハの上うえす
雪踏を改うる年ハいつて乃ちず雪花の出入うえ
うるもうを下結をとうを結の定めなり第

本の家ふうさ要を汁菜するの品のうへ互へ
常ちう 切者不切者と実ちうへかまへくなうう
ふ当りうへうへうべうとそうを見するの家あへ
ぶやうふうを品なうとうとす又利徳のあるうそ
門屋後のうへふ事をあそ雪踏と長ケ惰の金市所
ちそ仕へ社雪花へ用うるを利徳へ家結乃
年へうへふ利徳ちうへ結をうとあき
うあへ結ど踏の菓ちも我ちもこ人なるそり結を
うへ無なうへ踏のかうへうう京惰赤ふうみ

て数寄の者数十人あるとても絃を学ぶ者結
ともに初学のあいなるべしまづ〜そなたを始る人い
先うくと はなるべきさ人いまづく書踏とたとえ
まつしといえどもとなうを信宝事なれば広ものづく
海でまづ名又ぞうとうふ商売うれ義財者
始こと の尚書の写絃のあり大こ絃きあすれば
とて琴事踏のうふ投をけうあるかやうのとき
知るのもひく出るふお数せう又庚指ろおとも
かりうく

○腰掛に置く具の心得

一かんこん 一版半徒こそ 一間左もあのうち絃
一視文庫 一当日宗名 一畑艸盆
家内のなるあとそぐの腰掛の法をたのうしあい
ぐあ壁外ぐしに腰ひと一つおくべ上座下せうく
変ぐ視ぐれのうち年二年家小力ものあ入るう
ず主院弟ものうしあるば腰ひけ視ぐあ
ぐあ利なう事ものあいおうて家外て入ぐ
作ぐなく一本いうけく入ぐなう帽子なの事

すこ[スン]し[クテン]潔[ケツ]白[シロ]なるものを対[ハ]に美[セウキヤウ]もあり人[ヒト]あるを一書
に云[イフ]ずこの事[モノ]勿論[モチロン]なりなどと意[ホン]の事[コト]は利休の
時代[トキ]までは用[ヨウ]ひ思[オモ]ひなどと意[ホン]の一[イチ]をうと
なりしこゝろやうにかの千年[コノタ]老人[ロウジン]なるべく用[ヨウ]ひ
るまうり利休[リキウ]などと事[ホン]とふるを意[ホン]の為[ため]
なるべし

○砂雪隠[スナセツイン]の心得

客来[キヤクライ]まふ水[ミヅ]ちり掃除[サウヂ]まひく手[テ]後[ノち]近き砂[スナ]
を手[テヲ]掛[カケ]られよ色[ヒキ]なるようにそなへて観[ゴラン]ずべし

近[チカ]の方[ほう]もかゝる砂[スナ]をそなへべし織[ヒロ]いるうの方[フジヤウ]
あるんも外[ハカリ]ばかり又[ユウ]夕[ベ]ばかりなるを側[トナ]へ
まうふいつとなく常[ジヤウチウ]行[ギヤウ]ふ砂[スナ]を入[いれ]さるを打[ウチカケ]
ものと紙[スナ]をする事[コト]大[おほ]かたこゝろひなり戸[ト]あるよ
く辰[タツ]巳[ミ]の方[ほう]夏[ナツ]の夜[ヤハイ]ゑ戸[ト]をあけ置[オク]といふる
説[セツ]あるゝ必[コム]ずべ故[カオ]多[ホ]くあるまるゆゑなり

○石燈籠[イシドウロウ]心得

燈[タウロウ]籠[ロウ]の大[おほ]きなるを灯[タウロウ]の大[おほ]きなるを
竹[タケノワ]輪[ノ]の事[モノ]なるべし沈[アヂサヰ]香[コウ]
掃除[サウヂ]しく沈[アヂサヰ]香[コウ]

とるとけ結べ〳〵

○露路 打水の傳

茶會の日を刻限と考へて客紙の内かこ

掛物をとぐくゝ〳〵つゞる紙をよくまきぬ

やうふすべ〳〵結ゆゝ掛のゝ内かけゝ入ゝてとりゝ

結びをよく結へしゝ棹のあるゝ水ゝけぬ

ゝすべ〳〵ゝゝめゝゝゝめゝゝとゝゝゝゝ

ゝゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝべゝゝゝゝ茶ゝゝゝの茶ゝゝゝ炭

三露ゝあり大茶とゝく客雪紙入ゝゝ一度中立

あふ一度人茶ゝみゝくゝあゝ立ゝゝゝ合ゝゝ

ゝ見ゝゝ一度のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

後の中を立水とゝ定及ゝゝの立水ゝゝゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

と利休茶ゝゝゝ茶ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ俺乃茶湯大ゝ釜和紙乃仕也二度ゝゝ

ゝゝゝゝゝ二度ゝゝ

ゝゝゝ釜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝ俺水注ゝゝゝゝゝゝゝ振也於無の袋

夜のやうに便くと告る仏法なし俗うち法華のく
とも業と結ぶく又仏事とうなれどさかもも和
ぐうと止く功う事ななり手綱の時分四条畷と
あくも遊客なさやうふ手法仏事もく又をきく
竹木も水をかつあるもうなどを考く新るうさ
うさうの比野ぞうう俗をかどさなうとかうう

○草庵の内和尚用意

解合の投口規矩又い意非実上ケ多和尚い
信くんねべく床の掛物答も中和かうく意く

すくを掛け一度信の体なうこもおもふこを仏なう
実上ケも和入いもうく重くく初のぐく大法うれども
天気の時分室風呂起きぶひ室仏い美人の
室又料理ありたとく詩く一き天気などの時
内尚多室とうく実上ケあけうを生るなどすく
ありうあまくとそ一向く俗くまでも時くなんとすぐ
大和をのつく寸へとす和尚の仏事の法とう
ぐしきとする法尚とうとすなし
吾大おくく和尚すべく室の教うべ家う

墨蹟(ホクセキ)席(セキ)に掛(カケ)る文は風炉(フロ)のときも棚(タナ)に香合 羽箒
炭斗なり 釜(カネ)組は湯(ヤウ)を用る席も棚(タナ)との數(カス)同
おなしことなれはふかくしらんまてとのなり

利休乃字に

床(トコ)に 床ざしきに 座敷(ザシキ) 棚へまする

二(ニ)調(テウ) 一(イツ)半(ハン) 二半 一調

けふりく 諸(シヨ)事(レ)とんぞうし床棚座(ザ)席(セキ)も
貼調(テウ)半(ハン)をとらへ そまをとのふより 釜(カネ)組
そうしてのこ流(レウ)なりけん(ニノ)に

此座の専一(センイチ)とするところなり されは調半(テウハン)を用ゆべく
る人は言(コト)の数寄者(スキシヤ)の作るところにあらず必(カナラズ)要なりせ
ふかくのみならず
まことなるの外文(タチ)は伝ふるまでの手(テ)のうちにおいてあらはれ
さらし
古実の外(ホカ)にもなほ(ナホ)さまさまのことある(アホ)へし
事(ジ)し もつとも(モツ)の言入(コトハリ)を鑑(カンカ)べきものなり

茶式湖月抄五篇巻之下 大尾

官許 嘉永四年癸亥冬十二月

京都三條通高倉東 出雲寺文治郎

同 三條通御幸町角 大谷仁兵衛

同 寺町通松原上ル 今井七郎兵衛

同 四條通寺町東 菱澤重兵衛

書林

和漢洋書籍

文部省御藏版翻刻書 仕入賣捌處

學校用書籍類

京都書林津逮堂

三條通御幸町角

大谷仁兵衛